

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 212-0001

住 所 神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地

氏 名 デイ・ティ・ファインエレクトロニクス株式会社

取締役社長 吉川 進

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	デイ・ティ・ファインエレクトロニクス株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市幸区小向東芝町1番地		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	28	電子部品・デバイス・電子回路製造業
主たる事業 の内容	集積回路製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,806	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 5,766 (調) 5,650	(実) 5,856 (調) 5,737	(実) 5,770 (調) 5,633	(実) 5,340 (調) 5,305	(実) 5,651 (調) 5,537
削減率		(実) -1.6 % (調) -1.5 %	(実) -0.1 % (調) 0.3 %	(実) 7.4 % (調) 6.1 %	(実) 2.0 % (調) 2.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量原単位等の値	155.0	163.3	177.6	158.6	151.9
活動量の値	37.19	35.84	32.48	33.66	-
排出量原単位等の削減率		-5.4 %	-14.6 %	-2.3 %	2.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	温室効果が削減施策を推進するものの、新規設備の導入によるエネルギーの増加。また、減産による設備稼働率の低下も加わり、対前年度改善が出来なかった。				
第2年度	温室効果が削減施策推進効果が表れ、温室効果ガスの排出量は削減出来たが、減産による設備稼働率低下により、排出量原単位は、対前年度改善が出来なかった。				
第3年度	2021年度はGW連休を活用し、1回/3年の事業所内特高停電によりメンテナンスを実施した為、例年と比べ温室効果ガスの排出量が少なかった。また、停電時に数件の設備省エネ改善を行った事が、更に効果に繋がった。				
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)			排出量に関しては、毎年改善アイテムを発掘し対策を進める事で若干の改善はされているが、減産による設備稼働率低下がネックとなっている。		
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)			減産による設備稼働率悪化分をカバー出来る様、少しでも排出量削減アイテムを発掘し対策を推進する。		

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>(1) DNPグループエコ活動に掲げる、温室効果ガス排出量削減に向け、全従業員に省エネ教育を実施し、意識の改革を図る。 (2) 定期的な省エネパトロールの実施による啓蒙活動を実施する。 (3) 新規設備又は改造時、省エネタイプの導入。 (4) 未使用又は、低稼働設備の電源OFFや搬出の推進。</p>
<p>第1年度</p>	<p>(1) エッチング装置、他工場への移設による撤去 (2) マスクパターン修正装置、他工場への移設による撤去 (3) 検査装置未使用による停止～撤去 (4) クリーンルーム用エアフィルターの更新(省エネタイプ) (5) 空調機超省エネベルト化への交換(追加実施) (6) 冷却チラー運転の適性化(追加実施)</p>
<p>第2年度</p>	<p>(1) クリーンルーム空調機稼働調整による適正化 (2) クリーンルーム用エアフィルターの更新継続(省エネタイプ) (3) 活性炭吸着塔inverter交換 (4) 検査装置、他工場への移設による撤去 (5) 老朽化設備の廃却処分</p>
<p>第3年度</p>	<p>(1) キャリア・ケース洗浄機更新による撤去 (2) FFU省エネタイプへの更新継続 (3) 第4クリーンルーム室圧の適正化による省エネ (4) スクラパー(ISC-3) Inverter調整による省エネ (5) 蛍光灯LED化の拡大 (6) 更衣室換気器具のタイマー化による省エネ (7) 空調機室及び倉庫関係の蛍光灯間引き</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>温室効果ガス排出量を削減する為に、毎年、省エネアイテムを発掘し、改善に向け推進した。 また、改善の進捗状況や電力削減量等は、1回/月の社内環境会議で報告しフォローを行い、PDCAサイクルを回し活動を行って来た。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	他社の敷地を借用し、事業活動を行っている為、再生可能エネルギー源の利用は困難な状況。
風力	○	
バイオマス	○	
未利用エネルギー	○	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
	再生可能エネルギー源利用計画無し	

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	×
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	×

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	(1) 製品運搬及び部材購入時の物流回数削減による排ガス削減。 (2) 廃棄物収集運搬回数の削減及び混載化の推進により、 輸送用燃料使用量原単位：1%/年削減
第1年度	計画(1)の実施状況 定期便以外の突発的な製品運搬を削減し温室効果ガスの削減を推進。 計画(2)の実施状況 廃棄物収集運搬を他社との混載を推進し輸送用燃料削減。(混載回数：12回/年)
第2年度	計画(1)の実施状況 定期便以外の突発的な製品運搬を削減し温室効果ガスの削減推進を継続。 計画(2)の実施状況 ・廃棄物収集運搬を他社との混載を推進し輸送用燃料削減継続。(混載回数：12回/年)
第3年度	計画(1)の実施状況 定期便以外の突発的な製品運搬を削減し温室効果ガスの削減推進を継続。 計画(2)の実施状況 ・廃棄物収集運搬を他社との混載を推進し輸送用燃料削減継続。(混載回数：12回/年)

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	(1) グリーン購入の継続 (2) 廃棄物分別徹底によるリサイクル化を推進し、廃棄物の削減を図る。 廃棄物排出量生産金額原単位：1%/年削減
第1年度	計画(1)の実施状況 新規原材料購入の際は、グリーン調達ガイドラインに適合した製品の購入を推進中。 計画(2)の実施状況 廃棄物分別徹底による有価売却化(紙くず・鉄くず・非鉄くず・ガラスくず等)
第2年度	計画(1)の実施状況 新規原材料購入の際は、グリーン調達ガイドラインに適合した製品の購入を継続推進中。 計画(2)の実施状況 廃棄物分別徹底による有価売却化継続(紙くず・鉄くず・非鉄くず・ガラスくず等) 新たにOA機器類・バッテリーの売却を開始し、リサイクル拡大
第3年度	計画(1)の実施状況 新規原材料購入の際は、グリーン調達ガイドラインに適合した製品の購入を継続推進中。 計画(2)の実施状況 廃棄物分別徹底による有価売却化継続(紙くず・鉄くず・非鉄くず・ガラスくず・OA機器・バッテリー等)

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	5,766 t-CO ₂	5,856 t-CO ₂	5,770 t-CO ₂	5,340 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	2,902 KL	2,977 KL	2,983 KL	2,806 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
アイ・ティ・ファインアウトロックス株式会社	神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地	5,766	5,856	5,770	5,340

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度